

2018年度第3四半期 決算報告書

プレスリリース
2018年10月30日、パリ発



欧州の経済成長と市場動向が相反するなかでグループの事業成長が持続

融資残高：前年同期比 **+4.2%**

事業部門の営業収益は増収*

事業部門営業収益：前年同期比 **+0.8%****

成長を遂げる専門的金融業務の費用が増加、
国内リテールバンキング支店網およびホールセールバンキング事業の費用は減少

事業部門営業費用：前年同期比 **+1.4%****

リスク費用は依然として低水準

34 bp***

株主帰属純利益は増益

株主帰属純利益：21億2400万ユーロ（前年同期比 **+4.0%**）

極めて盤石なバランスシート

エクイティ TIER 1 比率****：11.7%（2018年6月末比 **+0.2 pt**）

事業成長

純利益は増益

* 国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業；** 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く；*** リスク費用÷期首顧客向け融資残高（年率換算後のベースポイント）；**** 2018年9月30日現在、資本要求指令4（CRD4）全面適用の比率



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2018年10月29日にBNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2018年度第3四半期の業績が検討されました。

純利益は増益

欧州の経済成長に対し、金利を始めとする資本市場の低迷という、相反する環境にあつて、BNPパリバは当四半期も事業成長を遂げました。

営業収益は当四半期に103億5200万ユーロとなり、前年同期と比べて0.4%の減収でした。なお、前年同期の営業収益には一時項目として、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment : OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment : DVA）が合計で+2100万ユーロ含まれていました。

事業部門の営業収益は、当四半期に前年同期比0.3%の増収となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.8%）。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、長引く低金利環境のマイナス影響を、順調な事業開発（とりわけ専門的金融業務）の増収効果で一部補いましたが、全体として1.1%の小幅減収でした。国際金融サービス部門では、不利な為替の影響²にも関わらず、前年同期比4.3%の大幅増収を果たしました。一方、ホールセールバンキング事業（CIB）では、欧州の市場環境が依然として活気を欠いたことから、前年同期比3.5%の減収となりました。

営業費用は、当グループ全体で72億7700万ユーロとなり、前年同期と比べて2.0%増加しました。なお当四半期の営業費用には、一時項目として、事業改編費用および買収に関わる事業再編費用³が、合計で2億6700万ユーロ含まれていました（前年同期は2億2200万ユーロ）。

事業部門全体では、営業費用は当四半期に前年同期比2.1%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.4%）。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、専門的金融業務の事業開発がコスト増要因となった一方で、国内リテールバンキング支店網（フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルク）の合理化でコスト節減を果たしたことから、全体では0.2%の増加に留まりました。国際金融サービス部門では、事業の成長に伴い前年同期比6.1%増加しました。一方CIBでは、コスト節減策が奏功し、前年同期比0.7%減少しました。

これらを受けて、当グループの営業総利益は30億7500万ユーロとなり、前年同期と比べて5.7%減少しました。なお事業部門だけをみると、前年同期比3.1%の減少でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.3%）。

リスク費用は、当四半期に6億8600万ユーロで（前年同期は6億6800万ユーロ）、前年同期と比べて2.7%増加しましたが、依然として低水準に留まり顧客向け融資残高の34bp相当でした。これにはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、および、イタリアで引き続き貸付ポートフォリオの質が改善していることが反映されています。

当四半期の営業利益は、グループ全体で23億8900万ユーロとなり（前年同期は25億9300万ユーロ）、前年同期と比べて7.9%減少しました。なお事業部門だけをみると、営業利益は前年同期比5.0%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-2.7%）。

営業外項目は当四半期に4億2700万ユーロの利益となりました（前年同期は3億8000万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目に反映されている主なものとして、ファースト・ハワイアン・バンクに対する30.3%の持株を売却したことによる、一過性の譲渡益2億8600万ユーロが挙げられます。なお前年同期の営業外項目には、SBI Lifeの新規株式公開に伴う一過性の譲渡益が3億2600万ユーロ計上された一方で、トルコのTEBに関わるのれんのお全額減損処理で1億7200万ユーロのマイナス要因も反映されていました。

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+7.0%

³ 特にLaSer、BGZ銀行、DABバンク、およびGeneral Electric LLDが影響

これらを受けて、当四半期の税引前利益はグループ全体で 28 億 1600 万ユーロとなり（前年同期は 29 億 7300 万ユーロ）、前年同期から 5.3%減少しました。なお事業部門だけをとると、前年同期比 11.5%の減益となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-2.9%）。

当四半期の法人税は、以下の要因の恩恵を受けて減少しました：ファースト・ハワイアン・バンクに対する持株 30.3%の売却による譲渡益には、長期キャピタルゲインに関わる軽減税率が適用されました；ベルギーおよび米国で法人減税が実施されました。以上から、当四半期の株主帰属純利益は 21 億 2400 万ユーロとなり、前年同期の 20 億 4300 万ユーロと比べて 4.0%の増益を果たしました。なお、一時項目¹を除くと前年同期から横ばいでした。

2018 年 9 月末現在、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率²は、IFRS 第 9 号「金融商品」（以下、「IFRS 9」）を考慮後で 11.7%となりました（2018 年 6 月末比+25bp）。また、バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率³は 4.0%となり、流動性カバレッジ比率は 2018 年 9 月末現在で 110%でした。さらに、当グループの即時利用可能な余剰資金は 3080 億ユーロに上りましたが、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり純資産額は 2018 年 9 月末現在で 73.3 ユーロとなり、2008 年 12 月末からの年平均成長率（CAGR）は 5.0%に相当します。これは当グループが、景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。なお、前四半期末には 1 株当たり 3.02 ユーロの現金配当を実施済みであることは特筆に値します。

当グループは、2020 年度事業改編計画を積極的に実施しています。同計画は、新たなカスタマーエクスペリエンス、デジタル変革、業務効率化などを目指す意欲的なプログラムです（当四半期のコスト節減額は 1 億 7300 万ユーロに上り、また、2017 年初の計画始動からの累計で 10 億 3000 万ユーロのコスト節減を達成）。さらにグループは、引き続き内部統制およびコンプライアンス体制の強化に取り組んでいます。

BNP パリバ・グループは、社会への関与に関わる意欲的な方針を実施中です。そこでは倫理的責任、社会・環境イノベーション、および低炭素経済を目指して、重要な活動を推進しています。

*
* *

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益は 323 億 5600 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.8%の減収でした。なお、前年同期の営業収益には、一時項目として、新韓金融持株会社およびユーロネクスト株の売却による譲渡益が合計で+2 億 3300 万ユーロ含まれていたことに加え、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment : OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment : DVA）が合計で-1 億 8600 万ユーロ含まれていました。

事業部門全体の営業収益は、不利な為替の影響を反映して、前年同期から横ばいでした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.3%）。これを部門別にみると、国内市場部門⁴では、低金利環境によるマイナス影響を、順調な事業開発による増収効果が一部補ったものの、前年同期比 0.3%減少しました。国際金融サービス部門では、不利な為替の影響にも関わらず、前年同期比 5.6%の増収を果たしました⁵。一方 CIB では、欧州市場が前年同期と比べて活気を欠いた影響から、高水準であった前年同期の営業収益と比べて 6.9%の減収となりました（なお為替の影響を排除し、また 2017 年度第 2 四半期に計上された譲渡益の影響を除くと、減収幅は 4.0%に縮小）。

グループの営業費用は、当第 3 四半期累計期間に 229 億 500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.6%増加しました。当第 3 四半期累計期間の営業費用には、一時項目として、事業改編費用および買収に関わる事業再編費用⁶が合計で 7 億 5300 万ユーロ含まれていました（前年同期は 5 億 100 万ユーロ）。これらの一時項目を除くと、当第 3 四半期累計期間の営業費用の増加幅は 1.5%へと縮小します。

¹ 一時項目による税引後ベースの影響：2018 年度第 3 四半期は+7800 万ユーロ；2017 年度第 3 四半期は-200 万ユーロ

² 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮した比率

³ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置無しで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

⁴ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

⁵ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+7.4%

⁶ 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

事業部門全体の営業費用は、当第 3 四半期累計期間に前年同期比 1.9%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+2.0%）。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、専門的金融業務の事業開発がコスト増要因となった一方で、国内リテールバンキング支店網の合理化でコスト節減を果たしたことから、全体では 1.7%の増加に留まりました。国際金融サービス部門では、事業の成長に伴い営業費用は 5.7%増加しました。一方 CIB では、コスト節減策が奏功し、当第 3 四半期累計期間に 2.3%の減少を果たしました。

これらを受けて、グループの当第 3 四半期累計期間の営業総利益は 94 億 5100 万ユーロとなり、前年同期比 8.3%減少しました。なお事業部門だけをみると、3.8%の減少に留まります（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-3.1%）。

リスク費用は当第 3 四半期累計期間に 18 億 6800 万ユーロとなり（前年同期は 19 億 2200 万ユーロ）、顧客向け融資残高の 32bp 相当でした。このような低水準にはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、および、イタリアで貸付ポートフォリオの質の改善が進んでいることが反映されています。

グループの営業利益は当第 3 四半期累計期間に 75 億 8300 万ユーロとなり（前年同期は 83 億 8400 万ユーロ）、前年同期と比べて 9.6%減少しました。なお事業部門だけをみると、減少幅は 5.0%へと縮小します（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-5.1%）。

営業外項目は、当第 3 四半期累計期間に 9 億 4200 万ユーロの利益となりました（前年同期は 8 億 400 万ユーロの利益）。当第 3 四半期累計期間の営業外項目には、建物の売却による譲渡益 1 億 100 万ユーロに加え、ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%の持株を売却したことによる譲渡益 2 億 8600 万ユーロが、いずれも一時項目として含まれていました。なお前年同期には、SBI Life の新規株式公開に伴う売出しで 3 億 2600 万ユーロのキャピタルゲインを実現した一方で、TEB ののれんの全額減損処理によって 1 億 7200 万ユーロの損失が計上されました。

当第 3 四半期累計期間の税引前利益は 85 億 2500 万ユーロとなり（前年同期は 91 億 8800 万ユーロ）、前年同期と比べて 7.2%の減益となりました。なお事業部門だけをみると、減益幅は 7.6%となります（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-5.2%）。

当第 3 四半期累計期間の税率は平均で 25.5%となりました。これには、ベルギーおよび米国で法人減税が実施されたことに加え、ファースト・ハワイアン・バンクに対する持株 30.3%の売却による譲渡益に長期キャピタルゲインに関わる軽減税率が適用されたことにより、合計で 2 ポイントの税率の軽減効果がありました。

以上から、当第 3 四半期累計期間の株主帰属純利益は 60 億 8400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.9%の減益でしたが、一時項目の影響²を除くと、減益幅は 2.8%に縮小します。

これらを受けて、当第 3 四半期累計期間の自己資本利益率（ROE）は、一時項目を除くベースで 9.5%となりました。有形自己資本利益率（ROTE）は、一時項目を除くベースで 11.0%でした。

*
* *

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

² 一時項目による税引後ベースの影響：2018 年度第 3 四半期累計期間は-1 億 6900 万ユーロ；2017 年度第 3 四半期累計期間は-9700 万ユーロ

リテールバンキングおよびサービス事業

国内市場部門

国内市場部門の営業活動には拍車がかかり、融資残高は当四半期に前年同期比 **4.7%**増加しました。とりわけ、リテールバンキング業務および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）の両方で貸出が順調に伸びました。預金残高は、全ての国において伸びを示し、前年同期比 **4.7%**増加しました。プライベート・バンキング業務では、運用資産残高が **2017年9月末**の水準と比べて **1.3%**増加しました。

国内市場部門は、引き続き新たなカスタマーエクスペリエンスを開発するとともに、デジタル変革を推し進めました。その結果 **Hello bank!** の顧客数は当四半期末に **300万人**が目前に迫り（**2017年9月末**から **13.7%**増加）、またフランスでは顧客の獲得による純増が順調に進み、顧客数は **40万人**の閾値を超えるに至りました。国内市場部門は、個人顧客のモバイルサービスの利用を加速させるとともに、利用可能なモバイルアプリの機能を強化しました。例えば、イタリアでは送金の安全性を確保するために顔認識機能をオプションとして追加し、またフランスではあらゆる送金方法を可能にすることを検討中です。国内市場部門は法人顧客向けデジタルサービスの開発にも力を入れており、その成果として、例えばフランスでは既に法人顧客の **70%超**が **Ma Banque Enterprise** のデジタルサービスを利用していることが挙げられます。国内市場部門は、提供するサービスを新たな銀行の業務形態に適応させるべく継続して取り組んでいます。その意味で、当部門が開発した、モバイル総合決済ソリューションである **LyfPay** は、**2017年5月**の導入以来、ダウンロード数は既に **100万回**を超えています。さらに、国内市場部門は、顧客サービスの質を高めコストを削減するために、国内支店網の合理化と適正規模化を実施中であり、これにより **2018年末**までに、フランス国リテールバンキングの支店網において地域レベルの管理層を廃止する予定です。

営業収益¹は当四半期に **38億7400万ユーロ**となり、前年同期と比べて **1.1%**の小幅減収でした。これには低金利環境が影響しており、事業の拡大や専門的金融業務の成長による増収効果がこれを補うに足りませんでした。

営業費用¹は、当四半期に **26億500万ユーロ**で前年同期比 **0.2%**増加しました。専門的金融業務の事業開発による費用の増加傾向を、リテールバンキング支店網の合理化によって平均で **1.3%**のコスト削減を達成したことで、ほぼ打ち消した格好となりました。

営業総利益¹は当四半期に **12億6900万ユーロ**となり、前年同期比 **3.8%**減少しました。

リスク費用¹は前年同期と比べて **19.4%**減少しましたが、とりわけ **BNL bc** での継続的な減少が貢献しました。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1**をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益²は当四半期に **9億5600万ユーロ**となり、前年同期比 **1.4%**の減益でした。これにより、低金利環境にありながらそのマイナス影響を、事業活動を高めて補うことで、全体的な粘り強さを証明したといえます。

2018年度第3四半期累計期間（1-9月）において、営業収益¹は **117億8100万ユーロ**で前年同期比 **0.3%**の減収でした。これには低金利環境が影響しており、それを営業活動の活発化や専門的金融業務の成長による増収効果がほぼ打ち消した格好となりました。営業費用¹は当第3四半期累計期間に **81億400万ユーロ**となり、前年同期比 **1.7%**増加しました（税金および **IFRIC 21** にもとづく拠出金の影響を除くと **+1.4%**）。専門的金融業務の事業開発による費用の増加傾向を、リテールバンキング支店網の合理化によって平均で **0.7%**³のコスト削減を達成したことで、費用の増加を一部打ち消しました。

¹ フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

² PEL/CELの影響を除く：2018年度第3四半期は+400万ユーロ；2017年度第3四半期は+700万ユーロ

³ 税金および **IFRIC 21** にもとづく拠出金の影響を除く

営業総利益¹は、当第3四半期累計期間に前年同期比4.6%減少して36億7700万ユーロとなりました。リスク費用は前年同期比26.4%減少しましたが、とりわけBNL bcでの継続的な減少が貢献しました。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益²は当第3四半期累計期間に27億4600万ユーロに上り、前年同期と比べて0.6%の増益を果たしました。

フランス国内リテールバンキング（FRB）

フランス国内リテールバンキング（FRB）は、フランスの経済成長を背景に当四半期も積極的に事業活動を展開しました。融資残高は、個人および法人顧客向けの貸付が引き続き伸びたことから、前年同期と比べて4.4%増加しました。住宅ローンでは、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済が2017年6月以来急速に減少してきましたが、当四半期もこの傾向が確認されました。預金残高は、当座預金の高い伸びが牽引し、前年同期比4.8%増加しました。また生命保険業務が当四半期に好業績を上げ、保有契約高は2017年9月末と比べて3.6%増加しました。

BNPパリバ・カードィフとMatmutの業務提携の一環として、今年の5月に発売された新たな損害保険は成功を収めており、2018年9月末現在で成約件数が既に75,000件に上っています。目標は、かかる損害保険の契約件数を3倍にするとともに、顧客浸透率を2020年まで8%から12%へと高めることです。

営業収益³は当四半期に15億7100万ユーロとなり、前年同期と比べて0.8%の減収でした。純利息収入³は、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済の水準が徐々に正常化し改善傾向が続いたことから、前年同期と比べてほぼ横ばいとなりました。手数料収入³は、特に金融手数料の落ち込みを受けて前年同期比1.8%減少しました。

営業費用³は、当四半期に11億6800万ユーロで前年同期比1.3%減少したことから正のジョーズ効果を生み出しましたが、これにはコスト節減策が奏功しました（リテールバンキング支店網の規模の適正化および管理体制の合理化）。

これらを受けて、当四半期の営業総利益³は4億300万ユーロに上り、前年同期と比べて0.3%の増加を果たしました。

リスク費用³は、特定の貸付債権の影響で、前年同期の6500万ユーロから当四半期は9000万ユーロへと増加しました。それでも当四半期のリスク費用は低水準に留まり、顧客向け融資残高の20bp相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益⁴は当四半期に2億7600万ユーロとなり、前年同期比8.5%の減益でした。

2018年度第3四半期累計期間（1-9月）において、営業収益³は47億5800万ユーロとなり、前年同期と比べて1.1%の減収でした。純利息収入³は、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済違約金の効果が前年同期の高水準から減少したため、融資残高の伸びにも関わらず、当第3四半期累計期間は嵩上げされていた前年同期と比べて1.2%減少しました。手数料収入³は前年同期比0.9%減少しました。営業費用³はコスト節減策が奏功し、当第3四半期累計期間は34億6100万ユーロとなりました。営業費用は、前年同期との比較で0.6%減少しましたが、税金およびIFRIC 21にもとづく拠出金の影響を除くと、前年同期比1.0%の減少を果たしました。これらを受けて、営業総利益³は当第3四半期累計期間に12億9700万ユーロとなり、前年同期と比べて2.4%減少しました。リスク費用³は、前年同期の2億2400万ユーロから減少して2億300万ユーロとなり、顧客向け融資残高の15bp相当でした。

¹ フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

² PEL/CELの影響を除く：2018年度第3四半期累計期間は+500万ユーロ；2017年度第3四半期累計期間は+600万ユーロ

³ フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

⁴ PEL/CELの影響を除く：2018年度第3四半期は+400万ユーロ；2017年度第3四半期は+700万ユーロ

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRB の税引前利益¹は当第 3 四半期累計期間に 9 億 7900 万ユーロに上り、前年同期と比べて 1.3%の増益を果たしました。

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) の融資残高は、当四半期に前年同期と比べて 2.1%増加しました。預金残高は、当座預金の急増を受けて当四半期に 2.7%増加しました。生命保険の保有契約高は 2017 年 9 月末の水準から 9.7%増加し、同様にミューチュアルファンドの残高は 1.4%増加しました。

BNL bc はまた、新たなデジタル技術の利用法を引き続き開発した結果、アルバルおよび Telepass（イタリアの有料道路自動料金収受システムの運営会社）との協働で、中小企業および個人向けに、サービスをセットにした商品の提供を開始しました。これは銀行口座に、有料道路料金やレンタカー料金の支払いだけでなく、モビリティに関する様々なサービスを組み合わせることができる商品です。

営業収益²は、当四半期に前年同期から 8.3%減少して 6 億 6000 万ユーロとなりました。純利息収入²は、長引く低金利環境の影響、より優良なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフト、および、当四半期に発生した一過性のマイナス要因から、前年同期比 12.2%減少しました。手数料収入²は、金融手数料の減少を受けて前年同期比 1.6%の減収となりました。

営業費用²は、コスト節減策が奏功し当四半期に 4 億 3900 万ユーロとなり、前年同期比 1.5%減少しました。

これらを受けて、営業総利益²は当四半期に 2 億 2100 万ユーロとなり、前年同期から 19.5%減少しました。

リスク費用²は、貸付ポートフォリオの質の改善を受けて当四半期も減少を続け（前年同期から 7200 万ユーロ減少）、顧客向け融資残高の 67bp 相当となりました。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当四半期に 8000 万ユーロに上りました。これは前年同期と比べて 1700 万ユーロの増益であり、BNL bc の収益性が徐々に回復していることが確認されました。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益²は前年同期比 4.8%減少して 20 億 7000 万ユーロとなりました。純利息収入²は、長引く低金利環境の影響、およびより優良なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトから、前年同期比 7.7%減少しました。一方、手数料収入²は前年同期から安定推移しました。営業費用²は、当第 3 四半期累計期間に 13 億 5700 万ユーロとなり前年同期比 1.0%増加しましたが、税金および IFRIC 21 にもとづく拠出金の影響、および、イタリアの破綻処理基金への追加拠出金³を除くと、前年同期から 0.1%減少しました。これらを受けて、当第 3 四半期累計期間の営業総利益²は 7 億 1300 万ユーロとなり、前年同期から 14.2%減少しました。リスク費用²は、当第 3 四半期累計期間に顧客向け融資残高の 73bp 相当となり、引き続き減少しました（前年同期と比べて 2 億 2500 万ユーロ減少）。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 2 億 5100 万ユーロとなり、前年同期（1 億 4600 万ユーロ）と比べて 1.7 倍を上回る水準を達成しました。

¹ PEL/CEL の影響を除く：2018 年度第 3 四半期累計期間は+500 万ユーロ；2017 年度第 3 四半期累計期間は+600 万ユーロ

² イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む

³ 1100 万ユーロを 2018 年度第 2 四半期に拠出

ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

ベルギー国内リテールバンキング (BRB) は、引き続き積極的な事業活動を展開しました。融資残高は、法人向け貸出の急増に加え住宅ローンも伸びたことから、前年同期比 **4.6%**増加しました。預金残高は、当座預金および普通預金の伸びに支えられて、前年同期比 **3.8%**増加しました。

BRB はまた、引き続きデジタルサービスの開発で成果を上げました。**Easy Banking** のモバイルアプリは、継続的にフィーチャーを強化した効果によって、ユーザー数が **2017 年 9 月末**の水準から **23%**増加して **140 万人**に達しました。また、**Easy Banking Business** を利用する企業数は **2017 年 12 月末**から **20%**の激増を遂げていますが、これにはとりわけ **Easy Banking Business** のモバイル版を成功裡に導入したことが契機となりました。

以上にもかかわらず、BRB の営業収益¹ は当四半期に前年同期比 **3.7%**減少して、**8 億 8700 万ユーロ**となりました。純利息収入¹ は、低金利環境の影響で前年同期比 **6.0%**減少しました。一方、手数料収入¹ は、銀行手数料が伸びた半面、販売ネットワークを拡大した独立系代理店への割戻報酬が増加したものの、全体では前年同期比 **3.6%**の増収を果たしました。

営業費用¹ は当四半期に **5 億 6300 万ユーロ**となり、前年同期と比べて **1.3%**減少しましたが、これにはコスト節減策 (リテールバンキング支店網の規模の適正化、および管理体制の合理化) が奏功しました。

これらを受けて、営業総利益¹ は当四半期に **3 億 2400 万ユーロ**で、前年同期比 **7.6%**減少しました。

当四半期のリスク費用¹ は、貸倒引当金繰入額を戻入益が上回ったことから、純額で **400 万ユーロ**の貸倒引当金戻入益が計上されました。なお前年同期には相殺後で **2300 万ユーロ**の貸倒引当金繰入額が計上されました。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3 分の 1** をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BRB の税引前利益は当四半期に **3 億 1700 万ユーロ**となり、前年同期比 **3.6%**の減益でした。

2018 年度第 3 四半期累計期間 (1-9 月)において、営業収益¹ は前年同期比 **1.6%**減少して **27 億 3800 万ユーロ**となりました。純利息収入¹ は、融資残高の増加による増収効果を低金利環境のマイナス影響が上回ったことから、前年同期比 **1.0%**減少しました。手数料収入¹ は、金融手数料の減少に加え、販売ネットワークを拡大した独立系代理店への割戻報酬が増加したことから、前年同期比 **3.2%**減少しました。営業費用¹ は当第 3 四半期累計期間に **19 億 5000 万ユーロ**となり、前年同期比 **0.1%**減少しました。なお、税金および IFRIC 21 にもとづく拠出金の影響を除くと、コスト節減策が奏功し、営業費用は前年同期比 **1.1%**の減少になります。営業総利益¹ は当第 3 四半期累計期間に **7 億 8800 万ユーロ**となり、前年同期から **5.1%**減少しました。リスク費用¹ は当第 3 四半期累計期間にゼロとなりました (前年同期は **5000 万ユーロ**)。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3 分の 1** をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BRB の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に **7 億 4100 万ユーロ**となり、前年同期から **1.2%**の減益でした (税金および IFRIC 21 にもとづく拠出金の影響を除くと **0.7%**の増益)。

¹ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング

国内市場部門の専門的金融業務は、以下のように積極的な事業展開を継続しました。アルバルでは、ファイナンスフリートの契約台数が当四半期に 8.0%増加しました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比 9.0%¹増加しました。個人投資家部門では、旺盛な資金流入を受けて運用資産残高が 2017 年 9 月末の水準から 7.8%増加しました。Nickel では、口座開設数が当四半期に 100 万口座の閾値をクリアし（当四半期中の新規開設は 8 万 9 千口座超）、Nickel の顧客セグメントにおける大いなる成功を確認しました。Nickel の目標は、2020 年までに 200 万口座の開設を達成することです。これを実現するために、Nickel は販売店網の拡大を実施中であり、2020 年までに販売店を 10,000 軒にまで増やす目標を立てています（2018 年 9 月末現在、3,800 軒の街のタバコ屋（buralistes）が取り扱っていますが、これは 2018 年 6 月末の水準から 500 軒の増加を意味します）。

ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB）では、住宅ローンが順調に伸びたことから、融資残高は前年同期比 6.2%増加しました。預金残高は、とりわけ法人顧客セグメントで旺盛な資金流入があったため、前年同期比 12.3%の大幅増となりました。

その他国内市場部門は、引き続きデジタルバンキング・サービスの開発を推し進めた結果、Arval for me で成果を上げました。Arval for me は、個人顧客が車の点検・整備のために、アルバルと契約のある自動車整備工場へアクセスすることができるという、個人向けの初めてのオンラインプラットフォームです。Arval for me の顧客数は、既にイタリアおよびスペインで 7,000 人に上っています。

当四半期において、これら 5 つの業務部門合計の営業収益²は 7 億 5500 万ユーロに上り、全体として前年同期比 9.1%の増収を果たしました。これには事業開発の成果に加え、連結範囲の変更による影響が貢献していました。

営業費用²は、連結範囲の変更および事業開発の成果を反映して、当四半期に 4 億 3500 万ユーロとなり、前年同期比 8.7%増加しました。その結果、0.4 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

リスク費用²は前年同期から 1400 万ユーロ増加して、当四半期は 3300 万ユーロとなりました。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 5 つの業務部門の税引前利益は当四半期に 2 億 8300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.3%の増益を果たしました。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、これら 5 つの業務部門の営業収益²は、連結範囲の変更および事業開発の成果を反映して 22 億 1500 万ユーロに上り、前年同期比 7.9%の増収となりました。営業費用²は、当第 3 四半期累計期間に前年同期比 12.5%増加して、13 億 3600 万ユーロとなりました。これには連結範囲の変更および事業開発の影響に加え、新たなデジタルサービスの提供開始に関わる費用が負担となりましたが、特にアルバルおよびリーシング・ソリューションズでの増加が影響しました。リスク費用²は前年同期から 3500 万ユーロ増加して、当第 3 四半期累計期間は 9400 万ユーロとなりました。これにはとりわけ、アルバルで会計処理方法の変更起因して 1400 万ユーロに上る一過性の貸倒引当金繰入額が計上されたことが影響していました。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 5 つの業務部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 7 億 7500 万ユーロとなり、前年同期比 7.9%の減益でした。（アルバルにおける一過性の貸倒引当金繰入額の影響を除くと 6.3%の減益）。

*
* *

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの 100%を含む

国際金融サービス部門

国際金融サービス部門では以下のように、活発な事業活動を維持し成長を持続させました。融資残高は当四半期に前年同期比 **4.1%**増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+7.3%**）。また、貯蓄型商品および保険業務では、運用資産残高が **2017年9月末から2.4%**増加し、当四半期は **1兆660億**ユーロに上りました。

国際金融サービス部門は、全ての業務部門において積極的にデジタル変革を推進するとともに、新たなテクノロジーを取り入れました。国際リテールバンキングおよびパーソナル・ファイナンスでは、電子署名サービスの提供を開始しました（その結果、パーソナル・ファイナンスで当四半期に、**110万件**の契約に電子署名が利用されましたが、これは全成約件数の **48.2%**に相当します）。フランスではオンライン・アンケートを導入したところ、顧客の **8割超**が、返済補償保険の申込で速やかに承認を得ることができました（**2018年9月末現在**、契約件数は **15万件**）。ウェルス・マネジメント業務では、生体認証（音声、顔、指紋などによる個人識別）を利用した **My Biopass** を導入し、顧客の識別および取引の検証を可能にしています。国際金融サービス部門は、新たなテクノロジーや革新的な商品の開発を継続しており、既に **120** のロボット（管理、報告およびデータ処理の自動化）に加え、**17** のチャットボットが稼働しています。

国際金融サービス部門の営業収益は当四半期に **40億9700万**ユーロに上り、不利な為替の影響（トルコリラの下落）にも関わらず、前年同期比 **4.3%**の増収を果たしました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業収益は前年同期比 **7.0%**の増収になりますが、これにはパーソナル・ファイナンス、保険、および国際リテールバンキング¹が貢献しました。

営業費用は当四半期に **24億7300万**ユーロとなり、前年同期比 **6.1%**増加しましたが、これは積極的な事業開発に伴う増加です（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+6.3%**）。

営業総利益は当四半期に **16億2400万**ユーロに上り、前年同期と比べて **1.6%**増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+8.2%**）。

リスク費用は **4億8600万**ユーロで、低水準であった前年同期から **1億3400万**ユーロ増加しました。これにはパーソナル・ファイナンスで融資残高が伸びたことに加え、欧州・地中海沿岸諸国部門でリスク費用が増加したことが影響していました。

その他営業外項目は、当四半期に **1億5300万**ユーロの利益となりました（前年同期は **3億5800万**ユーロの利益）。当四半期のその他営業外項目には、ファースト・ハワイアン・バンクに対する **30.3%**の持株を売却したことによる、一過性の譲渡益² **1億5100万**ユーロが影響していました。なお前年同期のその他営業外項目には、**SBI Life** の新規株式公開に関わる売出しで実現したキャピタルゲイン **3億2600万**ユーロが含まれていました。

以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当四半期に **14億100万**ユーロとなり、前年同期比 **19.7%**の減益でしたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、減益幅は **4.4%**へと縮小します。

2018年度第3四半期累計期間（1-9月）において、営業収益は、不利な為替の影響にも関わらず、**124億3500万**ユーロに上り前年同期比 **5.6%**の増収を果たしました。なお連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業収益は **7.4%**の増収となりますが、その背景には積極的な事業活動によって全ての業務部門で増収となったことがあります。営業費用は、事業開発を受けて当第3四半期累計期間に **76億1600万**ユーロとなり、前年同期比 **5.7%**増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+6.1%**）。営業総利益は **48億1900万**ユーロで、前年同期比 **5.5%**増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**+9.4%**）。当第3四半期累計期間のリスク費用は **11億7800万**ユーロで、貸倒引当金戻入益の影響で低水準であった前年同期から **1億8000万**ユーロ増加しました。その他営業外項目は当第3四半期累計期間に **2億1100万**ユーロの利益となりました（前年同期は **3億7900万**ユーロの利益）。

¹ 欧州・地中海沿岸諸国およびバンクウェスト

² さらに、コーポレート・センターで **1億3500万**ユーロの為替差益を計上

当第 3 四半期累計期間のその他営業外項目には、ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%の持株を売却したことによる、一過性の譲渡益¹ 1 億 5100 万ユーロが影響していました。なお前年同期のその他営業外項目には、SBI Life の新規株式公開に関わる売出しで実現したキャピタルゲイン 3 億 2600 万ユーロが含まれていました。以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 42 億 900 万ユーロとなり前年同期比 3.7% の減益でしたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 2.7%の増益に転じます。

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンスは、買収した General Motors Europe の金融部門²の統合を推し進めるとともに、当四半期も積極的に事業の内部成長を追求しました。その結果、融資残高は当四半期に前年同期比 13.2%³の増加を果しましたが、これには欧州景気の回復を受けた借入需要の高まりと新たな提携関係の効果が貢献しました。パーソナル・ファイナンスは当四半期に Uber と業務提携契約を締結し、さらにフランスの Hyundai と業務提携を開始しました。当部門はまた、引き続きデジタルサービスの領域拡大や新たなテクノロジーの採用を継続した結果、既に 89 のロボットが稼働しています（これは 2018 年度第 2 四半期から 19%の増加を意味し、毎月 17 万件に上るタスクをこなしています）。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、融資残高の増加およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが奏功し、当四半期に前年同期比 13.5%の増収となり（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+9.9%）、13 億 8700 万ユーロに上りました。とりわけ、イタリア、スペインおよびドイツでの活発な営業活動が、当四半期の増収に貢献しました。

営業費用は、前年同期比 11.1%増加して 6 億 3900 万ユーロとなりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は事業開発を受けて 4.4%の増加となり、これにより 5.5 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました³。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に 7 億 4800 万ユーロに上り、前年同期と比べて 15.5%の大幅増となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+14.9%）。

リスク費用は、当四半期に 3 億 4500 万ユーロとなり（前年同期は 2 億 7300 万ユーロ）、前年同期から 7200 万ユーロ増加しましたが、これは主に融資残高の増加に起因するものです。なお当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の 161bp 相当でした。

その他営業外項目は、当四半期はゼロでした（前年同期は 2400 万ユーロの利益）。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に 4 億 2400 万ユーロに上り、前年同期と比べて 1.1%の増益となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.2%）。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益は前年同期比 13.1%の増収を果たし、41 億 2200 万ユーロに上りました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、融資残高の増加およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが奏功し、前年同期比 9.0%の増収となります。とりわけ、イタリア、スペインおよびドイツでの活発な営業活動が、増収の原動力となりました。営業費用は、当第 3 前年同期比 13.9%増加して、20 億 3600 万ユーロとなりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は事業開発に伴い前年同期比 6.7%増加しました。これらを受けて、当第 3 四半期累計期間の営業総利益は 20 億 8600 万ユーロとなり、前年同期比 12.4%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+11.2%）。リスク費用は、当第 3 四半期累計期間に 8 億 8600 万ユーロで（前年同期は 7 億 3800 万ユーロ）、顧客向け融資残高の 142bp 相当となり、低水準に留まりました。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 12 億 4700 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.3%の増益となりました。

¹ さらに、コーポレート・センターの損益計算書上で 1 億 3500 万ユーロの為替差益を計上

² 買収契約は 2017 年 10 月 31 日に調印

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門は全体的に好業績を収めました。融資残高は当四半期に前年同期比 7.1%¹ 増加しました。預金残高は、とりわけトルコでの伸びが著しく、当四半期に 12.5%¹ 増加しました。当部門は引き続きデジタルバンキングの開発を推し進めた結果、トルコでは Cepteteb の顧客数が既に 61 万 7 千人に上っており、またポーランドでは BGZ Optima の顧客数が 22 万 1 千人を数えています。当部門は新たなテクノロジーの開発を継続した結果、既に 13 のロボットが各地で稼働しており、また、ポーランド、トルコおよびモロッコにおいて、特定のトレードファイナンス取引や消費者ローンの申請に電子署名を導入しました。

営業収益²は当四半期に 5 億 6200 万ユーロに上り、前年同期と比べて 16.0%¹ の増収となりました。なお全ての地域で増収を果たしましたが、とりわけトルコの伸びが顕著でした。

営業費用²は、事業開発に起因して、当四半期は 3 億 8100 万ユーロで前年同期比 8.2%¹ の増加でした。その結果、大幅な正のジョーズ効果を生み出しました。

リスク費用²は、当四半期に 1 億 500 万ユーロに上りました。また、貸倒引当金戻入益の影響で低水準に留まった前年同期との比較では、当四半期にトルコでの上昇を受けて 4500 万ユーロ増加しました。その結果、当四半期のリスク費用は顧客向け融資残高の 108bp 相当となりました。

以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に 1 億 1800 万ユーロとなりました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 5.0% の減益でしたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、トルコリラの大幅下落の影響で、前年同期比 25.2% の減益となりました。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益²は、融資残高の増加および利鞘の改善に加え、手数料収入も高水準で推移したことから、17 億 5800 万ユーロに上り前年同期比 13.6%¹ の増収を果たしました。また、営業収益は全ての地域で増収となりました。営業費用²は、事業開発を受けて当第 3 四半期累計期間に 12 億ユーロとなり、前年同期比 6.0%¹ 増加しました。その結果、大幅な正のジョーズ効果を生み出しました。リスク費用²は、当第 3 四半期累計期間に 2 億 3000 万ユーロに上り、貸倒引当金戻入益の影響で低水準に留まった前年同期との比較では 3300 万ユーロ増加するとともに、顧客向け融資残高の 80bp 相当となりました。以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 5 億 800 万ユーロに上りました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 23.9% の大幅増益となりますが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、トルコリラの大幅下落の影響で、増益幅は 10.7% へと縮小します。

バンクウエスト

バンクウエストは当四半期も事業活動を拡大しました。預金残高は前年同期比 1.5%¹ 増加しました。融資残高は、個人および法人顧客向け貸出が順調に伸びたことから、前年同期比 0.3%¹ 増加しました（2017 年度第 4 四半期に実施した債権の証券化の影響を除くと、前年同期比+1.1%¹）。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は、2018 年 9 月末現在で 141 億米ドルに上り、2017 年 9 月末の水準と比べて 11.0%¹ 増加しました。当四半期は極めて高水準の資金純流入の恩恵を受けました（7 億米ドル）。

バンクウエストは当四半期にファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3% の持株を売却しました³。その結果、バンクウエストによる保有比率は現在 18.4% へと低下しており、2018 年 8 月 1 日をもってファースト・ハワイアン・バンクを持分法適用会社へと変更しました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² トルコのプライベート・バンキングの 100% を含む

³ 15.5% の持株を 2018 年 8 月 1 日に売却し、さらに 14.8% を 2018 年 9 月 10 日に売却

バンクウェストは業務のデジタル化を継続した結果、既に口座開設の 30%超がオンラインで行われています。また CIB との協働を通して、当四半期にキャッシュマネジメント業務で 3 つの新商品を開発・導入しました。

営業収益¹は、融資残高の増加を受けて当四半期に 6 億 3400 万ユーロに上り、前年同期比 0.8%²の増収となりました。

営業費用¹は、当四半期に 4 億 5700 万ユーロで前年同期比 3.3%²増加しました。なお非経常項目を除くと、当四半期の増加幅は 2.0%になります。

これらを受けて、当四半期の営業総利益¹は 1 億 7700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 4.8%²減少しました。

リスク費用¹は当四半期に 3500 万ユーロで依然として低水準に留まり、顧客向け融資残高の 22bp 相当でした（前年同期のリスク費用は 3200 万ユーロ）。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウェストの税引前利益は当四半期に 2 億 8600 万ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、前年同期比 9.4%の減益でした。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%の持株売却による譲渡益 1 億 5100 万ユーロ³を受けて、前年同期比 31.7%の増益に転じます。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益¹は、融資残高の増加を受けて 20 億 4800 万ユーロに上り、前年同期比 2.8%²の増収でした。営業費用¹は、14 億 4000 万ユーロで前年同期 2.5%²減少したことにより、0.3 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました²。リスク費用¹は当第 3 四半期累計期間に 6000 万ユーロで前年同期から 3200 万ユーロ減少し、顧客向け融資残高の 13bp 相当でした。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウェストの税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 6 億 8000 万ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、前年同期比 8.0%の増益でした。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%の持株売却による譲渡益 1 億 5100 万ユーロ³を受けて、増益幅は 13.1%へと拡大します。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門では、当四半期も事業成長が持続しました。2018 年 9 月末現在、運用資産残高⁴は 1 兆 660 億ユーロに達し、2017 年 9 月末の水準と比べて 2.4%増加しました。また、2017 年 12 月末との比較では、運用資産残高は 1.5%増加しましたが、これには主に以下の 3 つの要因（(i) 資金流入、(ii) パフォーマンス効果、(iii) 連結範囲の変更）が作用していました。(i) 当四半期は+160 億ユーロに上る高水準の資金純流入がありました：ウェルス・マネジメントで旺盛な資金流入があり、とりわけアジア、フランス、イタリアおよび米国が貢献しました；アセット・マネジメントでは、特定の顧客が資産運用をインソーシングに切り替えたことから債券運用契約に資金流出が集中しましたが、マネーマーケットファンドへの資金流入がこれを一部打ち消しました；保険部門では、特にユニットリンク保険へ高い資金流入がありました。(ii) パフォーマンス効果は、不利な金融市場の展開を受けて当四半期は-112 億ユーロとなりましたが、(iii) 連結範囲の変更による効果の+112 億ユーロがこれを相殺しました。これにはとりわけ、ABN アムロのルクセンブルクにおける投資業務部門の統合⁵が貢献しました。

¹ 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ さらに、コーポレート・センターで 1 億 3500 万ユーロの為替差益を計上

⁴ 分配金を含む

⁵ 買収契約は 2018 年 9 月 3 日に調印（運用資産の増加：ウェルス・マネジメントで 77 億ユーロ；保険部門で 27 億ユーロ）

2018年9月末現在、運用資産残高¹の部門別内訳は以下のとおりでした：アセット・マネジメントは4160億ユーロ；ウェルス・マネジメントは3770億ユーロ；保険部門は2450億ユーロ；不動産管理部門は290億ユーロ。

保険部門は当四半期も事業開発を推し進め、とりわけアジアにおいて保障保険に力を入れました。また、Matmutとの合弁会社であるCardif IARDを通して導入した新たな損害保険は、FRBの支店網を販売チャネルとして提供されましたが、好調なスタートを切り2018年9月末までに既に75,000件の成約に至っています。

保険部門の営業収益は当四半期に7億4100万ユーロに上り、前年同期比11.9%の増収を果たしました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+11.0%）。その背景には積極的な営業活動がありましたが、とりわけフランスでの営業活動が貢献しました。営業費用は、事業開発を受けて当四半期に3億5100万ユーロとなり、前年同期比12.8%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+7.8%）。その他営業外項目は、当四半期は軽微でしたが、前年同期にはSBI Lifeに対する持株4.0%の売却による譲渡益として、3億2600万ユーロが含まれていました。以上から、当四半期の税引前利益は4億2900万ユーロで前年同期比42.0%の減益となりましたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、保険部門の好業績を反映して、前年同期比7.3%の増益に転じます。

ウェルス&アセット・マネジメント部門は、引き続き事業開発を推し進めました。不動産管理部門では順調な事業成長が持続し、とりわけドイツの不動産投資ファンドの運用業務に加え、フランス、イタリアおよびドイツでアドバイザー業務が業績を伸ばしました。アセット・マネジメント部門はその投資アプローチに対して、国際的な投資家のネットワークであるPRI（Principles for Responsible Investment：責任投資原則）によって、4年連続で最高の格付けを授与されました。ウェルス・マネジメント部門は、ABNアムロのルクセンブルクの投資業務部門を統合²することにより、大規模起業家セグメントにおける地位を強化しました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、不動産管理部門の伸びが牽引し、当四半期は7億9100万ユーロに上り、前年同期比5.1%の増収でした。営業費用は当四半期に6億5400万ユーロとなり、前年同期比15.0%増加しました。その主な要因として、事業開発、アセット・マネジメント部門で計上した特定の事業改編プロジェクトによる影響、および、不動産管理部門によるStrutt & Parkerの買収に関わる費用が挙げられます。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に1億4300万ユーロとなり、極めて好業績であった前年同期の高い水準と比べて31.2%の減益となりました。

2018年度第3四半期累計期間（1-9月）において、保険部門の営業収益は、貯蓄型商品および保障保険の両方で積極的な事業活動を実施した結果、21億3700万ユーロに上り、前年同期比13.8%の増収でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+11.5%）。営業費用は、順調な事業開発を受けて10億6000万ユーロに上り、前年同期比13.6%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+9.4%）。その他営業外項目は、当第3四半期累計期間は軽微でしたが、前年同期にはSBI Life株4.0%の売却による譲渡益3億2600万ユーロが含まれていました。以上から、関連会社による利益貢献の増加を考慮した後、保険部門の税引前利益は当第3四半期累計期間に12億3900万ユーロとなり、前年同期比14.1%の減益でした。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、税引前利益は当部門の好調な業績を反映して前年同期比11.0%の増益に転じます。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当第3四半期累計期間に24億2000万ユーロに上り、全体として前年同期比5.9%の増収となりました。営業費用は19億800万ユーロで、前年同期比11.4%増加しました。なお、アセット・マネジメント部門で計上した特定の事業改編プロジェクトに関わる費用、および不動産管理部門によるStrutt & Parkerの買収に関わる費用を除くと、営業費用の増加幅は9.7%へと縮小します。当第3四半期累計期間のリスク費用は軽微でしたが、前年同期には純額で2900万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。

¹ 分配金を含む

² 買収契約は2018年9月3日に調印（運用資産の増加：ウェルス・マネジメントで77億ユーロ；保険部門で27億ユーロ）

以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 5 億 3600 万ユーロとなり、前年同期比 17.7%の減益でした（非経常項目¹を除くと前年同期比 11.2%の減益）。

*
* *

ホールセールバンキング事業 (CIB)

ホールセールバンキング事業 (CIB) は当四半期に、欧州で活気を欠く金融市場に直面しましたが、特に FICC² 業務には厳しい環境でした。

CIB の営業収益は当四半期に 25 億 6500 万ユーロとなり、前年同期比 3.5%の減収でした。

グローバルマーケット部門の営業収益は当四半期に 11 億 3200 万ユーロとなり、前年同期比 8.3%の減収でした。その背景には、2018 年度上半期同様、FICC² 業務が欧州で不利な市場環境に見舞われたことがあります。このマイナス影響を一部打ち消す形で、株式およびプライムサービス業務が好業績を上げました。なお市場リスクを測定するバリュー・アット・リスク (VaR) は、当四半期も依然として低水準に留まり 2300 万ユーロでした。

FICC² 業務の営業収益は当四半期に 6 億 8000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 15.1%の減収でした。金利業務では欧州で顧客の動きが鈍かった一方、為替業務にとって厳しい市場環境が続き、また、それほどではないにせよクレジット業務も不利な市場環境での活動を強いられました。それでもグローバルマーケット部門は、ユーロ建て全債券で 2018 年初から第 1 位を保持し、また全国際債券で第 9 位にランクインすることにより、債券引受業務における確固たる地位を確認しました。さらに当部門はデジタル変革を継続した結果、マルチディーラー・プラットフォームで成果を上げ、ユーロ建て金利スワップにおいて金額ベースで第 2 位につけるとともに、為替取引、ソブリン債、およびユーロ建て社債で第 5 位につけました。

株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当四半期に 4 億 5200 万ユーロに上り、前年同期比 4.5%の増収を果たしました。これには株式デリバティブの伸びが原動力となりましたが、プライムサービスの小幅な増加も貢献しました。

セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、当四半期に 5 億 300 万ユーロに上り、前年同期比 5.6%の増収でした。なお、当四半期にコーポレートバンキング部門から移管されたコルレス銀行業務の影響を除くと、営業収益は、事業の成長および新規マンドートの増収効果を受けて、前年同期比 2.7%の増収となります。カスタディ業務の受託資産および管理資産残高は、2017 年 9 月末比で 2.1%増加し、また取引件数は前年同期と比べて 2.5%増加しました。セキュリティーズ・サービス部門は当四半期に、Banco BPM の預託銀行業務の買収を完了しました³。当部門はまた、業務のデジタル化を推し進めた結果、既に 40 の自動化されたプロセスが稼働しており、さらに 35 のプロセスが開発段階にあります。当部門の PlanetFunds は、2018 Global Investor Investment Excellence Awards において年間最優秀イノベーション賞を受賞し、これにより当部門の革新的能力が評価されました。PlanetFunds はブロックチェーン技術に基づく新たなプラットフォームであり、資産運用会社によるファンドの販売を円滑化するべく、運用会社と共同で開発しました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期に 9 億 3000 万ユーロとなり前年同期比 1.9%の減収でしたが、当四半期にコルレス銀行業務をセキュリティーズ・サービス部門へ移管した影響を除くと、減収幅は 0.4%に縮小します。当部門の営業収益は、シンジケートローン業務が市場の冷え込みに直面したにも関わらず底堅く推移しました。

¹ 2017 年度第 2 四半期に売却した建物に関わる譲渡益、2018 年度第 3 四半期にアセット・マネジメント部門で計上した特定の事業改編プロジェクトに関わる費用、ならびに不動産管理部門による Strutt & Parker の買収に関わる費用

² Fixed Income, Currencies and Commodities (債券・通貨・コモディティ)

³ 買収案は 2018 年度第 1 四半期に発表され、買収契約は 2018 年 9 月 28 日に調印

その結果、当部門は EMEA¹地域で第 1 位を獲得し、シンジケートローン市場におけるリーダー的地位を確認しました。当部門はまた、引き続きトランザクションバンキング業務（キャッシュマネジメントおよびトレードファイナンス）で順調に開発を進めるとともに、欧州のトレードファイナンスで第 1 位につけることにより、その地位を強化しました。融資残高は当四半期に 1350 億ユーロに上り、前年同期比 5.1%増加しました。一方、預金残高は当四半期に 1260 億ユーロとなり、前年同期から 1.9%減少しました。当部門は引き続き業務のデジタル化を推し進めた結果、法人向けデジタルプラットフォームである Centric は、2018 年 9 月末現在で 9,400 件の顧客を有しています。

CIB の営業費用は当四半期に 18 億 8400 万ユーロとなり、前年同期比 0.7%減少しました。当四半期の営業費用の減少にはコスト削減計画が奏功していますが、同計画によって 2016 年末以来、既に累計で 4 億 1300 万ユーロの費用が節減されています。CIB は当四半期も引き続きコスト削減計画を推進した結果、認識された 200 のプロセスのうち既に 120 以上が自動化されており、また、エンドツーエンド・プロジェクトが徐々に実施されています（当四半期に与信審査プロセスおよびクライアント・オンボーディングのフィーチャーを発表）。

これらを受けて、CIB の営業総利益は当四半期に 6 億 8000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 10.6%減少しました。

CIB の当四半期のリスク費用は、貸倒引当金繰入額を戻入益が上回ったことから、純額で 4900 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました（前年同期は純額で 1000 万ユーロの貸倒引当金戻入益を計上）。当四半期のリスク費用には、グローバルマーケット部門で計上された純額で 300 万ユーロの貸倒引当金戻入益（前年同期は純額で 600 万ユーロの戻入益）に加え、コーポレートバンキング部門で計上された純額で 4600 万ユーロに上る貸倒引当金戻入益（前年同期は純額で 400 万ユーロの戻入益）が反映されていました。

以上から、CIB の税引前利益は当四半期に 7 億 3400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 5.6%の減益でした。かかる減益幅は、欧州市場が当四半期も引き続き低迷するなかにあつて、CIB の業績が底堅く推移したことを確認するものです。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、CIB の営業収益は 84 億 5000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 6.9%の減収となりました。なお、不利な為替の影響および 2017 年度第 2 四半期にコーポレートバンキング部門で計上された譲渡益の影響を除くと、減収幅は 4.0%へと縮小します。グローバルマーケット部門の営業収益は、欧州における FICC²業務の低迷を受けて、当第 3 四半期累計期間に 40 億 7700 万ユーロとなり、前年同期の高水準と比べて 9.6%の減収でした。FICC²業務の営業収益は当第 3 四半期累計期間に 22 億 1400 万ユーロとなり、取引が大きなボリュームを伴い極めて高水準であった前年同期と比べて、22.5%の減収でした。株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当第 3 四半期累計期間に 18 億 6300 万ユーロに上り、前年同期比 12.7%の大幅増収となりました。これにはとりわけ、株式デリバティブ業務で顧客の取引ボリュームが回復したことに加え、プライムブローカレッジ業務の開発が順調に進んだことが貢献しました。セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、当第 3 四半期累計期間に 15 億 2400 万ユーロに上り、前年同期比 5.0%の増収でした。なお、2018 年度第 3 四半期にコーポレートバンキング部門から移管されたコルレス銀行業務の影響を除くと、営業収益は、活発な営業活動および新規マंडートの増収効果で、前年同期比 4.0%の増収となります。コーポレートバンキング部門の営業収益は、当第 3 四半期累計期間に 28 億 4900 万ユーロで、前年同期比 8.5%の減収でした。なお、不利な為替の影響、2017 年度第 2 四半期に計上した譲渡益、および 2018 年度第 3 四半期にコルレス銀行業務をセキュリティーズ・サービス部門へ移管した影響を除くと、減収幅は 1.6%へと縮小します。コーポレートバンキング部門は当第 3 四半期累計期間に、相次ぐ新規株式公開の延期が特に響いて、欧州市場で大型案件の減少に直面しましたが、一方、南北アメリカおよびアジア太平洋地域では良好な業績を収めました。当部門はまた、引き続きトランザクションバンキング業務（キャッシュマネジメントおよびトレードファイナンス）の開発を推し進めました。

CIB の営業費用は当第 3 四半期累計期間に 62 億 4400 万ユーロとなり、コスト削減策が奏功し、前年同期比 2.3%減少しました（税金および IFRIC 21 にもとづく拠出金の影響を除くと 3.0%の減少）。

これらを受けて、CIB の営業総利益は当第 3 四半期累計期間に 17.9%減少して 22 億 600 万ユーロとなりました。リスク費用は、貸倒引当金繰入額を戻入益が上回ったことから、純額で 5700 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。それでも、純額で 1 億 8200 万ユーロに上る多額の貸倒引当金戻入益が計上された前年同期

¹ Europe, Middle East and Africa（欧州、中東およびアフリカ）

² Fixed Income, Currencies and Commodities（債券・通貨・コモディティ）

と比べれば、比較的 low 水準でした。なお、当第 3 四半期累計期間のリスク費用には、グローバルマーケット部門で計上された純額で 600 万ユーロの貸倒引当金繰入額（前年同期は純額で 4200 万ユーロの戻入益）に加え、コーポレートバンキング部門で計上された純額で 6000 万ユーロの貸倒引当金戻入益（前年同期は純額で 1 億 3900 万ユーロの戻入益）が反映されていました。以上から、CIB の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 22 億 8800 万ユーロとなり、譲渡益や多額の貸倒引当金戻入益の恩恵を受けて高水準であった前年同期と比べて 21.2% の減益でした。CIB は当第 3 四半期累計期間に税引前利益の想定自己資本利益率で 16%¹ を達成しました。かかる水準は欧州市場の低迷を考慮すると堅調な業績といえますが、これにはコスト節減策が奏功したことに加え、CIB の財務資源に対する厳しい管理体制が反映されています。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は当四半期に -4600 万ユーロとなり、これに対し前年同期は +2200 万ユーロでした。なお前年同期の営業収益には、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment : OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment : DVA）が合計で +2100 万ユーロ含まれていました。

営業費用は当四半期に 3 億 8800 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億 8200 万ユーロでした。当四半期の営業費用には、一時項目として、2 億 4800 万ユーロの事業改編費用（前年同期は 2 億 500 万ユーロ）に加え、買収² に関わる事業再編費用 1900 万ユーロ（前年同期は 1700 万ユーロ）が含まれていました。

当四半期のリスク費用は軽微でした（前年同期は純額で 1600 万ユーロの貸倒引当金繰入額を計上）。

営業外項目は当四半期に 1 億 3400 万ユーロの利益となりました（前年同期は 1 億 3900 万ユーロの損失）。当四半期の営業外項目には、ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3% 持株の売却により生じた、一過性の為替差益 1 億 3500 万ユーロが含まれていました³。なお前年同期の営業外項目には、トルコの TEB に関わるのれんの全額減損処理で計上された、一過性の 1 億 7200 万ユーロが含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの税引前損益は、当四半期に 2 億 7900 万ユーロの損失となりました。これに対し前年同期は 5 億 2500 万ユーロの損失でした。

2018 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、コーポレート・センターの営業収益は 1 億 2100 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億 8200 万ユーロでした。なお、前年同期の営業収益には、一時項目として、新韓金融持株会社およびユーロネクスト株の売却による譲渡益が合計で +2 億 3300 万ユーロ含まれていたことに加え、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment : OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment : DVA）が合計で -1 億 8600 万ユーロ含まれていました。さらに、当第 3 四半期累計期間の営業収益には、プリンシパル・インベストメンツからの利益貢献が、前年同期の高水準から減少したことが反映されています。営業費用は、当第 3 四半期累計期間に 11 億 7100 万ユーロとなったのに対し、前年同期は 9 億 9000 万ユーロでした。当第 3 四半期累計期間の営業費用には、一時項目として、7 億 2100 万ユーロの事業改編費用（前年同期は 4 億 4800 万ユーロ）に加え、買収² に関わる事業再編費用 3200 万ユーロ（前年同期は 5300 万ユーロ）が含まれていました。リスク費用は、当第 3 四半期累計期間に 2300 万ユーロとなりました（前年同期は 1 億 2200 万ユーロ）。当第 3 四半期累計期間の営業外項目は、2 億 9100 万ユーロの利益でした（前年同期は 1 億 4500 万ユーロの損失）。当第 3 四半期累計期間の営業外項目には、一時項目として、建物の売却による譲渡益 1 億 100 万ユーロに加え、ファースト・ハワイアン・バンクに対する持株 30.3% の売却により生じた為替差益 1 億 3500 万ユーロ³ が含まれていました。なお前年同期の営業外項目には、トルコの TEB に関わるのれんの全額減損処理で計上された、一過性の -1 億 7200 万ユーロが含まれていました。以上から、コーポレート・センターの税引前損益は、当第 3 四半期累計期間に 7 億 2300 万ユーロの損失となりましたが、これに対し前年同期は 8 億 2200 万ユーロの損失でした。

*
* *

¹ 2018 年 1-9 月期の純利益を年換算して算定

² 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

³ さらに、バンクウェストで 1 億 5100 万ユーロの譲渡益を計上

財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率¹は、2018 年 9 月末現在で 11.7%となり、以下の要因によって 2018 年 6 月末の水準から 25bp 上昇しました：(i) ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%持株の売却および 2 件の比較的小規模な買収²からの正味の影響 (+15 bp)；(ii) 配当性向 50%を考慮後の、当四半期の純利益（ファースト・ハワイアン・バンクに対する 30.3%持株の売却による譲渡益を除く）(+10 bp)。リスク加重資産は、為替変動の影響を除くベースで安定推移しました。なお、為替およびその他の要素がエクイティ Tier 1 比率に及ぼす影響は、全体として限定的です。

バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率³は Tier 1 資本全部にもとづき算定されますが、同比率は 2018 年 9 月末現在で 4.0%となりました。

流動性カバレッジ比率は、2018 年 9 月末現在で 110%でした。

当グループの即時利用可能な余剰資金は、2018 年 9 月末現在で 3080 億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で、1 年超の余裕資金があることを意味します。

当グループの自己資本に関わる比率の推移は、グループが規制枠組のなかで、規律をもってバランスシートを管理する能力を有していることを証明しています。

*
* *

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は次のように述べています

「BNP パリバは、当四半期に株主帰属純利益で 21 億ユーロを上げる着実な業績を収めました。

欧州の経済成長に対し市場の低迷という、相反する環境にあつて、グループは事業成長を維持しました。欧州市場の長引く低迷にも関わらず、事業部門全体の営業収益は、専門的金融業務が原動力となり、当四半期に小幅増収を果たしました。

バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率が当四半期に 11.7%に達したことが証明するように、グループのバランスシートは極めて盤石です。

グループは、社会参加に関わる方針を積極的に実施するとともに、より高度なサービスを顧客に提供するために、デジタル変革計画に取り組んでいます。

このような好業績の達成を可能にした BNP パリバの全従業員の貢献に感謝の意を表します。」

¹ 経過措置なしで全ての資本要求指令 4 (CRD4) 規則を考慮した比率。また、欧州議会・理事会規則 (EU) No 575/2013 第 26 条第 2 項に従う。IFRS 9 の初度適用による影響は十分に考慮済み

² ABN アムロのルクセンブルクの投資業務部門、および Banco BPM のスペインの預託銀行業務部門

³ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会 (EC) 委任法令にもとづき算定された比率

連結損益計算書

	3Q18	3Q17	3Q18 / 3Q17	2Q18	3Q18 / 2Q18	9M18	9M17	9M18 / 9M17
<i>(単位：百万ユーロ)</i>								
営業収益	10,352	10,394	-0.4%	11,206	-7.6%	32,356	32,629	-0.8%
営業費用および減価償却費	-7,277	-7,133	+2.0%	-7,368	-1.2%	-22,905	-22,323	+2.6%
営業総利益	3,075	3,261	-5.7%	3,838	-19.9%	9,451	10,306	-8.3%
リスク費用	-686	-668	+2.7%	-567	+21.0%	-1,868	-1,922	-2.8%
営業利益	2,389	2,593	-7.9%	3,271	-27.0%	7,583	8,384	-9.6%
持分法適用会社投資損益	139	150	-7.3%	132	+5.3%	433	538	-19.5%
その他営業外項目	288	230	+25.2%	50	n.s.	509	266	+91.4%
営業外項目	427	380	+12.4%	182	n.s.	942	804	+17.2%
税引前利益	2,816	2,973	-5.3%	3,453	-18.4%	8,525	9,188	-7.2%
法人税	-583	-828	-29.6%	-918	-36.5%	-2,059	-2,523	-18.4%
少数株主帰属純利益	-109	-102	+6.9%	-142	-23.2%	-382	-332	+15.1%
株主帰属純利益	2,124	2,043	+4.0%	2,393	-11.2%	6,084	6,333	-3.9%
コスト/インカム率	70.3%	68.6%	+1.7 pt	65.8%	+4.5 pt	70.8%	68.4%	+2.4 pt

BNPパリバの2018年度第3四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。
 法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results（業績）」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



2018年度第3四半期 - コア事業別業績

	国内市場 部門	国際金融サ ービス部門	ホールセ ールバン キング事 業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計	
(単位：百万ユーロ)							
営業収益	3,737	4,097	2,565	10,398	-46	10,352	
	対前年同期比	-1.3%	+4.3%	-3.5%	+0.3%	n.s.	-0.4%
	対前四半期比	-1.5%	-4.3%	-13.9%	-5.9%	n.s.	-7.6%
営業費用および減価償却費	-2,531	-2,473	-1,884	-6,889	-388	-7,277	
	対前年同期比	+0.3%	+6.1%	-0.7%	+2.1%	+1.5%	+2.0%
	対前四半期比	+3.2%	-2.4%	-4.4%	-1.0%	-5.3%	-1.2%
営業総利益	1,205	1,624	680	3,509	-434	3,075	
	対前年同期比	-4.5%	+1.6%	-10.6%	-3.1%	+20.4%	-5.7%
	対前四半期比	-9.9%	-6.9%	-32.5%	-14.2%	+71.4%	-19.9%
リスク費用	-251	-486	49	-688	2	-686	
	対前年同期比	-19.2%	+38.1%	n.s.	+5.5%	n.s.	+2.7%
	対前四半期比	+22.4%	+49.0%	n.s.	+24.2%	n.s.	+21.0%
営業利益	955	1,137	730	2,822	-433	2,389	
	対前年同期比	+0.3%	-8.7%	-5.4%	-5.0%	+14.9%	-7.9%
	対前四半期比	-15.8%	-19.8%	-26.0%	-20.2%	+62.3%	-27.0%
持分法適用会社投資損益	5	111	4	120	19	139	
その他営業外項目	0	153	0	154	134	288	
税引前利益	960	1,401	734	3,095	-279	2,816	
	対前年同期比	-1.8%	-19.7%	-5.6%	-11.5%	-46.9%	-5.3%
	対前四半期比	-15.2%	-8.2%	-26.3%	-15.3%	+38.7%	-18.4%

	国内市場 部門	国際金融サ ービス部門	ホールセ ールバン キング事 業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計	
(単位：百万ユーロ)							
営業収益	3,737	4,097	2,565	10,398	-46	10,352	
	前年同期	3,786	3,928	2,658	10,372	22	10,394
	前四半期	3,792	4,279	2,979	11,050	156	11,206
営業費用および減価償却費	-2,531	-2,473	-1,884	-6,889	-388	-7,277	
	前年同期	-2,524	-2,330	-1,897	-6,751	-382	-7,133
	前四半期	-2,454	-2,534	-1,970	-6,959	-409	-7,368
営業総利益	1,205	1,624	680	3,509	-434	3,075	
	前年同期	1,262	1,598	761	3,622	-361	3,261
	前四半期	1,338	1,745	1,009	4,091	-253	3,838
リスク費用	-251	-486	49	-688	2	-686	
	前年同期	-310	-352	10	-652	-16	-668
	前四半期	-205	-326	-23	-554	-13	-567
米国の関係機関との包括的和解に関連する費用	0	0	0	0	0	0	
	前年同期	0	0	0	0	0	
	前四半期	0	0	0	0	0	
営業利益	955	1,137	730	2,822	-433	2,389	
	前年同期	952	1,246	772	2,970	-377	2,593
	前四半期	1,133	1,418	986	3,538	-267	3,271
持分法適用会社投資損益	5	111	4	120	19	139	
	前年同期	22	140	-2	160	-10	150
	前四半期	-3	109	7	113	19	132
その他営業外項目	0	153	0	154	134	288	
	前年同期	3	358	8	369	-139	230
	前四半期	1	-1	3	4	46	50
税引前利益	960	1,401	734	3,095	-279	2,816	
	前年同期	977	1,744	778	3,498	-525	2,973
	前四半期	1,132	1,526	996	3,654	-201	3,453
法人税						-583	
少数株主帰属純利益						-109	
株主帰属純利益						2,124	

**2018年1-9月期 - コア事業別業績**

	国内市場 部門	国際金融サー ビス部門	ホールセ ールバン キング事 業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計	
<i>(単位：百万ユーロ)</i>							
営業収益	11,349	12,435	8,450	32,235	121	32,356	
	対前年同期比	-0.4%	+5.6%	-6.9%	-0.0%	-68.3%	-0.8%
営業費用および減価償却費	-7,873	-7,616	-6,244	-21,734	-1,171	-22,905	
	対前年同期比	+1.7%	+5.7%	-2.3%	+1.9%	+18.3%	+2.6%
営業総利益	3,476	4,819	2,206	10,501	-1,050	9,451	
	対前年同期比	-5.0%	+5.5%	-17.9%	-3.8%	+72.6%	-8.3%
リスク費用	-724	-1,178	57	-1,845	-23	-1,868	
	対前年同期比	-26.5%	+18.1%	-68.6%	+2.5%	-81.1%	-2.8%
営業利益	2,752	3,641	2,264	8,656	-1,073	7,583	
	対前年同期比	+3.0%	+1.9%	-21.1%	-5.0%	+47.0%	-9.6%
持分法適用会社投資損益	-3	357	19	373	60	433	
その他営業外項目	2	211	5	218	291	509	
税引前利益	2,751	4,209	2,288	9,248	-723	8,525	
	対前年同期比	+0.6%	-3.7%	-21.2%	-7.6%	-12.0%	-7.2%
法人税						-2,059	
少数株主帰属純利益						-382	
株主帰属純利益						6,084	

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
グループ							
営業収益	10,352	11,206	10,798	10,532	10,394	10,938	11,297
営業費用および減価償却費	-7,277	-7,368	-8,260	-7,621	-7,133	-7,071	-8,119
営業総利益	3,075	3,838	2,538	2,911	3,261	3,867	3,178
リスク費用	-686	-567	-615	-985	-668	-662	-592
営業利益	2,389	3,271	1,923	1,926	2,593	3,205	2,586
持分法適用会社投資損益	139	132	162	175	150	223	165
その他営業外項目	288	50	171	21	230	33	3
税引前利益	2,816	3,453	2,256	2,122	2,973	3,461	2,754
法人税	-583	-918	-558	-580	-828	-943	-752
少数株主帰属純利益	-109	-142	-131	-116	-102	-122	-108
株主帰属純利益	2,124	2,393	1,567	1,426	2,043	2,396	1,894
コスト/インカム率	70.3%	65.8%	76.5%	72.4%	68.6%	64.6%	71.9%



(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
リテールバンキングおよびサービス事業 PEL/CELの影響を除く							
営業収益	7,829	8,071	7,879	7,881	7,707	7,737	7,719
営業費用および減価償却費	-5,005	-4,988	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
営業総利益	2,825	3,082	2,383	2,780	2,853	2,953	2,414
リスク費用	-737	-531	-634	-722	-662	-686	-634
営業利益	2,088	2,551	1,748	2,058	2,191	2,267	1,780
持分法適用会社投資損益	116	107	132	147	162	174	139
その他営業外項目	153	0	59	55	361	16	11
税引前利益	2,357	2,658	1,939	2,261	2,714	2,457	1,930
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	53.2	53.0	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6
リテールバンキングおよびサービス事業							
営業収益	7,833	8,071	7,880	7,894	7,714	7,738	7,717
営業費用および減価償却費	-5,005	-4,988	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
営業総利益	2,829	3,083	2,384	2,793	2,860	2,955	2,412
リスク費用	-737	-531	-634	-722	-662	-686	-634
営業利益	2,092	2,552	1,749	2,071	2,198	2,269	1,778
持分法適用会社投資損益	116	107	132	147	162	174	139
その他営業外項目	153	0	59	55	361	16	11
税引前利益	2,361	2,659	1,940	2,273	2,721	2,458	1,927
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	53.2	53.0	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む）* PEL/CELの影響を除く							
営業収益	3,874	3,938	3,969	3,897	3,918	3,951	3,952
営業費用および減価償却費	-2,605	-2,528	-2,971	-2,653	-2,599	-2,488	-2,880
営業総利益	1,269	1,411	998	1,244	1,319	1,463	1,072
リスク費用	-251	-204	-270	-370	-311	-355	-319
営業利益	1,018	1,206	727	874	1,008	1,108	753
持分法適用会社投資損益	5	-3	-6	7	23	21	11
その他営業外項目	0	1	1	1	3	1	5
税引前利益	1,024	1,205	723	882	1,034	1,130	769
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-67	-73	-65	-70	-64	-78	-61
国内市場部門税引前利益	956	1,132	658	812	970	1,052	707
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.0	24.7	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む）							
営業収益	3,737	3,792	3,820	3,768	3,786	3,803	3,807
営業費用および減価償却費	-2,531	-2,454	-2,888	-2,582	-2,524	-2,417	-2,799
営業総利益	1,205	1,338	933	1,185	1,262	1,387	1,008
リスク費用	-251	-205	-269	-369	-310	-356	-319
営業利益	955	1,133	664	817	952	1,031	689
持分法適用会社投資損益	5	-3	-6	7	22	21	11
その他営業外項目	0	1	1	1	3	1	5
税引前利益	960	1,132	659	825	977	1,053	705
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.0	24.7	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) *							
営業収益	1,575	1,593	1,595	1,554	1,592	1,607	1,618
うち受取利息純額	900	875	891	888	904	886	909
うち手数料	676	718	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,168	-1,104	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
営業総利益	407	489	406	379	409	492	434
リスク費用	-90	-54	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	317	435	347	272	344	412	355
営業外項目	0	1	0	0	1	0	0
税引前利益	318	437	346	272	344	412	356
ウェルネス&アセット・マネジメントに配分される利益	-38	-39	-39	-38	-36	-40	-39
フランス国内リテールバンキング税引前利益	280	397	307	234	309	372	316
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.5	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) * PEL/CELの影響を除く**							
営業収益	1,571	1,593	1,594	1,541	1,585	1,606	1,620
うち受取利息純額	896	875	890	876	897	885	912
うち手数料	676	718	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,168	-1,104	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
営業総利益	403	489	405	366	402	490	436
リスク費用	-90	-54	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	313	435	346	259	337	411	358
営業外項目	0	1	0	0	1	0	0
税引前利益	314	436	345	259	337	411	358
ウェルネス&アセット・マネジメントに配分される利益	-38	-39	-39	-38	-36	-40	-39
フランス国内リテールバンキング税引前利益	276	397	306	221	302	371	319
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.5	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 2/3を含む)							
営業収益	1,502	1,517	1,517	1,481	1,518	1,531	1,541
営業費用および減価償却費	-1,133	-1,068	-1,151	-1,140	-1,145	-1,079	-1,146
営業総利益	369	449	367	341	374	452	395
リスク費用	-90	-53	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	280	396	307	234	308	372	316
営業外項目	0	1	0	0	0	0	0
税引前利益	280	397	307	234	309	372	316
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.5	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

** PEL/CELに関わる引当金: 当該引当金は、フランス国内リテールバンキングの収益に影響を及ぼすものであり、住宅積立預金口座 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅預金口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から生じるリスクについて、口座の存続期間全体にわたり設定されている

(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
PEL/CELの影響	4	0	1	13	7	1	-2



(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
BNL バンカ・コメルシアール (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) *							
営業収益	660	698	713	732	719	729	727
営業費用および減価償却費	-439	-438	-480	-457	-445	-430	-469
営業総利益	221	259	233	275	274	299	258
リスク費用	-131	-127	-169	-218	-203	-222	-228
営業利益	90	132	63	57	71	77	30
営業外項目	0	-1	0	0	0	0	0
税引前利益	89	130	63	57	71	77	30
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-10	-10	-12	-11	-9	-12	-12
BNL バンカ・コメルシアール税引前利益	80	120	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.5	5.5	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7

(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
BNL バンカ・コメルシアール (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)							
営業収益	638	675	691	710	699	707	706
営業費用および減価償却費	-427	-427	-470	-447	-434	-420	-460
営業総利益	211	248	221	263	265	287	247
リスク費用	-131	-127	-170	-217	-203	-222	-228
営業利益	80	122	51	46	62	65	18
営業外項目	0	-1	0	0	0	0	0
税引前利益	80	120	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.5	5.5	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7

(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) *							
営業収益	887	917	934	894	921	930	931
営業費用および減価償却費	-563	-552	-835	-601	-570	-560	-823
営業総利益	324	365	99	293	351	370	108
リスク費用	4	2	-6	-15	-23	-28	1
営業利益	328	367	93	278	328	343	109
持分法適用会社投資損益	8	1	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	0	0	1	1	3	2	0
税引前利益	336	368	92	281	347	351	106
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-19	-23	-13	-19	-18	-25	-10
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	317	345	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.7	5.6	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1

(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)							
営業収益	845	872	887	849	879	882	889
営業費用および減価償却費	-539	-529	-803	-577	-547	-537	-790
営業総利益	305	344	85	272	332	346	99
リスク費用	4	0	-4	-14	-23	-28	1
営業利益	309	344	80	259	309	317	99
持分法適用会社投資損益	8	1	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	0	0	1	1	3	2	0
税引前利益	317	345	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.7	5.6	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む)*							
営業収益	755	731	728	730	692	686	674
営業費用および減価償却費	-435	-433	-467	-420	-400	-382	-405
営業総利益	320	298	261	310	292	304	269
リスク費用	-33	-25	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	287	273	225	279	273	278	256
持分法適用会社投資損益	-3	-3	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	0	0	-1	0	0	0	5
税引前利益	284	271	223	284	277	292	274
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
その他国内市場部門税引前利益	283	270	222	283	277	291	274
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.3	4.3	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9
(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む)							
営業収益	752	728	725	727	690	683	671
営業費用および減価償却費	-433	-431	-464	-419	-399	-381	-403
営業総利益	319	297	260	309	291	303	269
リスク費用	-33	-25	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	286	272	225	278	272	277	255
持分法適用会社投資損益	-3	-3	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	0	0	-1	0	0	0	5
税引前利益	283	270	222	283	277	291	274
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.3	4.3	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
国際金融サービス部門							
営業収益	4,097	4,279	4,060	4,126	3,928	3,935	3,909
営業費用および減価償却費	-2,473	-2,534	-2,609	-2,519	-2,330	-2,367	-2,506
営業総利益	1,624	1,745	1,451	1,608	1,598	1,568	1,404
リスク費用	-486	-326	-365	-353	-352	-331	-315
営業利益	1,137	1,418	1,086	1,254	1,246	1,237	1,089
持分法適用会社投資損益	111	109	137	141	140	153	128
その他営業外項目	153	-1	58	54	358	14	6
税引前利益	1,401	1,526	1,281	1,449	1,744	1,405	1,222
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	28.2	28.3	28.3	26.8	26.5	26.6	26.7
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
パーソナル・ファイナンス							
営業収益	1,387	1,381	1,354	1,280	1,222	1,220	1,201
営業費用および減価償却費	-639	-672	-725	-639	-575	-579	-634
営業総利益	748	709	629	641	647	641	568
リスク費用	-345	-265	-276	-271	-273	-225	-240
営業利益	403	443	353	369	375	415	328
持分法適用会社投資損益	21	8	15	19	21	30	20
その他営業外項目	0	-2	4	0	24	0	5
税引前利益	424	450	373	389	420	445	353
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.2	7.1	7.0	5.8	5.5	5.4	5.3
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む) *							
営業収益	562	614	581	581	573	590	592
営業費用および減価償却費	-381	-402	-416	-414	-403	-420	-424
営業総利益	181	212	165	167	170	170	168
リスク費用	-105	-55	-70	-62	-60	-70	-67
営業利益	76	157	96	105	110	100	101
持分法適用会社投資損益	43	43	41	49	47	53	48
その他営業外項目	0	-1	54	3	1	-1	0
税引前利益	119	199	191	158	159	152	150
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	-1	0	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国税引前利益	118	199	191	157	158	151	149
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.8	4.8	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む)							
営業収益	561	612	579	579	571	588	590
営業費用および減価償却費	-380	-401	-415	-413	-401	-419	-423
営業総利益	180	211	164	167	170	169	167
リスク費用	-105	-55	-70	-62	-60	-70	-67
営業利益	75	156	95	105	110	99	100
持分法適用会社投資損益	43	43	41	49	47	53	48
その他営業外項目	0	-1	54	3	1	-1	0
税引前利益	118	199	191	157	158	151	149
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.8	4.8	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウエスト (米国プライベート・バンキングの 100%を含む) *							
営業収益	634	731	683	738	734	762	761
営業費用および減価償却費	-457	-488	-495	-483	-482	-513	-556
営業総利益	177	243	188	255	251	249	205
リスク費用	-35	-5	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	141	239	168	235	219	211	183
持分法適用会社投資損益	-1	0	0	0	0	0	0
その他営業外項目	153	0	0	1	3	1	-1
税引前利益	294	239	168	236	222	212	182
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-8	-7	-6	-6	-5	-5	-5
バンクウエスト税引前利益	286	232	162	230	217	206	177
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.8	6.0	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウエスト (米国プライベート・バンキングの 2/3を含む)							
営業収益	618	716	669	724	720	748	748
営業費用および減価償却費	-449	-480	-487	-475	-474	-505	-548
営業総利益	169	236	182	249	246	243	200
リスク費用	-35	-5	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	134	232	162	229	214	206	178
営業外項目	152	0	0	1	3	1	-1
税引前利益	286	232	162	230	217	206	177
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.8	6.0	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
保険部門							
営業収益	741	735	661	636	662	619	597
営業費用および減価償却費	-351	-342	-367	-317	-311	-297	-326
営業総利益	390	393	294	319	351	322	271
リスク費用	0	1	0	5	1	-1	-1
営業利益	390	394	294	324	352	321	271
持分法適用会社投資損益	38	46	75	53	63	55	54
その他営業外項目	1	0	0	49	325	0	1
税引前利益	429	440	369	425	740	376	326
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.4	8.5	8.7	7.8	7.7	7.7	7.8
(単位: 百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ウェルス&アセット・マネジメント部門							
営業収益	791	834	795	907	753	760	773
営業費用および減価償却費	-654	-639	-614	-675	-569	-567	-576
営業総利益	137	195	181	233	183	193	198
リスク費用	-1	-2	0	-5	12	4	14
営業利益	136	193	181	228	195	197	212
持分法適用会社投資損益	8	12	5	19	8	15	5
その他営業外項目	-1	1	0	1	5	14	0
税引前利益	143	206	187	248	208	226	217
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ホールセールバンキング事業 (CIB)							
営業収益	2,565	2,979	2,906	2,626	2,658	3,197	3,223
営業費用および減価償却費	-1,884	-1,970	-2,389	-1,883	-1,897	-1,988	-2,506
営業総利益	680	1,009	517	744	761	1,209	717
リスク費用	49	-23	31	-264	10	118	54
営業利益	730	986	548	480	772	1,328	770
持分法適用会社投資損益	4	7	9	13	-2	5	8
その他営業外項目	0	3	2	-1	8	15	0
税引前利益	734	996	558	491	778	1,349	778
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	20.7	20.3	19.9	21.1	21.4	21.9	22.1
(単位：百万ユーロ)							
コーポレートバンキング部門							
営業収益	930	1,015	904	1,050	948	1,176	991
営業費用および減価償却費	-597	-596	-691	-603	-546	-590	-691
営業総利益	334	418	213	447	402	586	299
リスク費用	46	13	1	-209	4	78	57
営業利益	380	431	214	238	407	664	356
営業外項目	5	7	9	5	6	19	7
税引前利益	385	438	223	243	413	683	364
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	12.1	12.0	11.9	12.4	12.5	12.7	12.6
(単位：百万ユーロ)							
グローバルマーケット部門							
営業収益	1,132	1,447	1,498	1,073	1,234	1,523	1,754
うち FICC	680	729	805	592	801	883	1,174
うち株式およびプライムサービス	452	718	692	482	433	640	580
営業費用および減価償却費	-848	-955	-1,275	-875	-958	-997	-1,424
営業総利益	284	492	223	198	276	526	330
リスク費用	3	-37	28	-57	6	39	-3
営業利益	287	455	251	142	281	565	327
持分法適用会社投資損益	0	1	1	5	-6	-1	0
その他営業外項目	0	1	0	1	6	3	0
税引前利益	287	457	252	147	281	567	326
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.7	7.4	7.1	7.8	8.0	8.4	8.7
(単位：百万ユーロ)							
セキュリティーズ・サービス部門							
営業収益	503	517	505	503	476	498	478
営業費用および減価償却費	-440	-419	-423	-405	-392	-400	-390
営業総利益	63	98	82	98	84	97	87
リスク費用	0	2	1	2	0	1	0
営業利益	63	100	83	100	84	99	87
営業外項目	0	1	0	0	0	0	0
税引前利益	62	101	83	100	84	99	88
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	0.9	0.9	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)	3Q18	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
コーポレート・センター							
営業収益	-46	156	11	12	22	3	358
営業費用および減価償却費	-388	-409	-374	-637	-382	-300	-308
うち事業再編費用および変革費用	-267	-275	-211	-456	-222	-168	-110
営業総利益	-434	-253	-363	-625	-361	-297	49
リスク費用	2	-13	-11	1	-16	-94	-11
営業利益	-433	-267	-374	-625	-377	-391	38
持分法適用会社投資損益	19	19	22	15	-10	44	19
その他営業外項目	134	46	110	-33	-139	2	-8
税引前利益	-279	-201	-242	-642	-525	-346	49



連結貸借対照表 — 2018年9月30日現在

(単位: 百万ユーロ)	2018年9月30日	2018年1月1日 ⁽¹⁾
資産		
現金および中央銀行預け金	206,738	178,433
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品		
トレーディング目的有価証券	193,411	130,326
貸出金および売戻契約	296,062	144,948
デリバティブ金融商品	241,176	229,896
ヘッジ目的デリバティブ	10,962	13,721
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	50,702	53,942
資本性金融商品	2,341	2,330
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	25,708	20,356
顧客貸出金および債権	744,632	731,176
負債性金融商品	70,744	69,426
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	2,379	3,064
保険活動に係る金融商品	238,197	227,712
当期および繰延税金資産	6,900	7,368
未収収益およびその他の資産	99,834	92,961
持分法投資	5,759	6,221
有形固定資産および投資不動産	26,051	25,000
無形固定資産	3,615	3,327
のれん	8,458	9,571
売却目的で保有する非流動資産	557	
資産合計	2,234,226	1,949,778
負債		
中央銀行預金	5,698	1,471
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品		
トレーディング目的有価証券	106,407	67,087
預金および買戻契約	323,782	174,645
負債証券	57,240	50,490
デリバティブ金融商品	232,925	227,644
ヘッジ目的デリバティブ	13,086	15,682
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	103,333	76,503
顧客預金	792,655	760,941
負債証券	156,319	148,156
劣後債	16,572	15,951
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	1,790	2,372
当期および繰延税金負債	2,427	2,234
未払費用およびその他の負債	88,836	80,472
保険会社の責任準備金	219,292	210,494
偶発債務等引当金	9,717	11,084
負債合計	2,130,079	1,845,226
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	93,668	89,880
親会社株主帰属当期純利益	6,084	7,759
 資本金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	99,752	97,639
資本に直接認識される資産および負債の変動	124	1,787
親会社株主資本	99,876	99,426
少数株主資本	4,271	5,126
連結資本合計	104,147	104,552
負債および資本合計	2,234,226	1,949,778

⁽¹⁾2018年1月1日現在。IFRS 9およびIFRS 15を適用後

代替的な業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM）
フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第 223-1 条にもとづく開示

代替的な業績指標	定義	使用理由
事業部門営業収益	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の営業収益の合計（なお、国内市場部門の営業収益には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3 を含む） BNP パリバ・グループ営業収益＝事業部門営業収益＋コーポレート・センター営業収益 調整後のグループ営業収益は「コア事業別業績」の表で表示	BNP パリバ・グループの業績を表す指標
PEL/CEL の影響を除く営業収益	PEL/CEL による影響を除く営業収益 調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示	PEL/CEL 口座から発生するリスクに対して、口座の存続期間全体にわたり引当金が設定されるが、これらの変動が及ぼす影響を除いた上で、当期の営業収益を表す指標
プライベート・バンキングの 100%を含むリテールバンキング事業の損益計算書	リテールバンキング事業の損益計算書であり、プライベート・バンキング業務の損益計算書の全部を含む 調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示	リテールバンキング事業の業績を表す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む（プライベート・バンキングは、リテールバンキング（2/3）とウェルス・マネジメント（1/3）の共同責任のもとに置かれるが、ウェルス&アセット・マネジメントに損益を配分する前である）
IFRIC 第 21 号の影響を除く営業費用の推移	IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を排除した、営業費用の推移 IFRIC21 による影響の詳細は、決算資料の「IFRIC 第 21 号に基づく税金および拠出金の内訳」にて開示	IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を除く、第 3 四半期累計期間営業費用の推移を表す指標（各事業年度に発生するほぼ全額を、第 1 四半期に計上）
リスク費用+期首顧客向け貸出金残高（単位:bp）	リスク費用（単位:百万ユーロ）を期首の顧客向け貸出金残高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「貸出金残高に関わるリスク費用」にて開示	事業体が負うリスクレベルの指標であり、貸出金残高を分母として算定し、%で表示
一時項目を除く株主帰属純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」にて開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバ・グループの純利益を表す指標。排除される項目の主なものに、事業改編および再編費用がある
自己資本利益率（ROE）（一時項目を除く）	ROE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示	一時項目を除いて算定した、BNP パリバ・グループの自己資本利益率を表す指標
有形自己資本利益率（ROTE）（一時項目を除く）	ROTE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示	一時項目を除いて算定した、BNP パリバ・グループの有形自己資本利益率を表す指標

比較分析 — 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2 会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用： 従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている

事業部門： 以下の 3 部門から成る：

- **国内市場部門：** フランス国内リテールバンキング（FRB）、BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB））を含む
- **国際金融サービス部門（IFS）：** 欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業（CIB）：** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、セキュリティーズ・サービス部門を含む。

純利益は増益.....	2
リテールバンキングおよびサービス事業.....	5
国内市場部門.....	5
国際金融サービス部門.....	10
ホールセールバンキング事業 (CIB)	15
コーポレート・センター.....	17
財務構造.....	18
連結損益計算書.....	19
2018年度第3四半期 - コア事業別業績.....	20
2018年1-9月期 - コア事業別業績.....	21
連結四半期業績の推移.....	22
連結貸借対照表 - 2018年9月30日現在.....	31
代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第223-1条にもとづく開示.....	32

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。2018年度に関わる財務諸表は、国際財務報告基準 (IFRS) の改訂基準である IFRS 第9号「金融商品」に基づき作成されていますが、過年度の数値については、同基準が認めるように、当グループは修正再表示を行わないことにしました。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process : SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。